

第4回福井県文化芸術推進会議 議事録

日 時 令和8年3月16日(月) 13:30~15:30

場 所 福井県庁 地下1階 正庁

出席者 委 員 ※座長(県職員)を除き、五十音順・敬称略

青山直弘、朝倉由希、浅野桃子、小畑善敬、坂本紫崖、嶋田浩昌、
玉森慶三、友田堅七郎、長谷光城、畑中容子、松谷由美、水井推山、
中村忠嗣(座長)

オブザーバー

織田一宏(敦賀市)、山口秀明(福井市)

事務局

福井県 高校教育課 参事(教科・生徒支援) 橋本貴志

義務教育課 主任 中島

生涯学習・文化財課 課長補佐 辻

文化課 課長 松田健二

1 開 会

- ・座長あいさつ

2 議 事

(1) 議題1:「福井県文化振興プラン」令和7年度の取組み状況と令和8年度の主な取組み
(案) について

[事務局]

- ・資料1に基づき説明

[中村委員(座長)]

- ・今ほどの説明について、「ふくい文化創造センター」を設置している県文化振興課事業団の専務理事である玉森委員に補足説明をお願いしたい。

[玉森委員]

- ・令和7年度のアートプロジェクトの採択件数は44件。現在6人のスタッフが伴走支援を行っており、令和8年度の助成金に向けた相談会ではすでに100件ほどの相談が来ている。実践団体の皆さんとフェイス・トゥー・フェイスで相談の場を持ち、それぞれの事業を地に足の着いたものにしていきたくと活動している。
- ・昨日、暗闇で視覚に障がいのある方とない方が一緒に演奏する公演「ミュージック・イン・ザ・ダーク」を開催し、非常に好評だった。越のルビーアーティストを含めたボランティアの方が7回にわたって障害のある方の接客等について勉強会を実施し、インクルーシブという新しい分野に対して取り組んできた。1回だけというわけではなく、今後も続けていきたい。

- ・令和 8 年度には、「だれでもピアノ®」を導入して、音楽と縁のないシニアの皆さんに向けたレッスンカフェの開催を予定している。
- ・子ども向けにはオーケストラ公演のリハーサル公開を予定している。例年どおり出張音楽堂も実施予定であり、学生や子どもたちの文化芸術体験を広く支援していきたい。
- ・福井商工会議所と一緒に取組みを進めている企業向け「文化芸術セミナー」については、アーティストの演奏とセミナーを組み合わせたかたちで令和 6 年度から計 6 回開催している。3 月 2 日には、福井商工会議所の議員懇談会の席でアート思考による企業経営についてのセミナーも実施した。その日の午後には同じ講師にお願いして経営者以外のビジネスパーソン向けセミナーも開催したが、参加者は約 80 名集まった。徐々に企業の関心が高まっていると感じている。
- ・現在、企業向けのアンケートも実施中であり、年度内に集計を行う予定。その結果も見ながら、企業と文化の関係のあり方について研究を進めていきたい。

[中村委員（座長）]

- ・では、福井県文化振興プランにかかる令和 7 年度 of 取組み状況と令和 8 年度の主な取組みについて、委員の皆様にご意見・ご提案等をお願いしたい。

[青山委員]

- ・資料中に県立美術館の「基本計画骨子（案）」とあるが、この会議の中で内容について説明してもらう場はあるかということと、「基本計画」と「基本計画骨子（案）」の違い、どのようなスケジュールで進んでいくのかなどお聞きしたい。

[事務局]

- ・県立美術館については、令和 7 年度中に基本計画を策定する予定で進めてきて、昨年 12 月に基本計画骨子（案）を作成して県議会に説明したところ。
- ・骨子（案）とは、現状・課題に対してこういう方向性で基本計画を作りたいということであり、基本的な方向性やそれに伴う取組みを記載している。
- ・しかし、知事が代わったため、大きな投資を伴う事業については改めて知事に確認しながら進める必要があり、今年度中に基本計画骨子は完成しない状況になっている。
- ・今後、基本計画を策定する段階になったところで、この会議の場でもご説明をさせていただきたい。

[嶋田委員]

- ・次世代の育成という点で、部活動の地域移行について心配している。
- ・地域移行というとスポーツの話ばかり聞かすが、文科系の部活動で吹奏楽や合唱、美術、書道、お茶、お花などといった分野に中学校・高校で触れることが文化活動の根底の部分をつくっていると思う。
- ・文化活動を行う人の絶対数がこれから減っていく中で、子どもたちが文化芸術に触れる機会だけではなく、しっかりと実践をとおして学ぶ機会を確保していく必要がある。

[事務局]

- ・県では、部活動の地域移行に係るガイドラインの見直しなどを行い、子どもたちのことを一番に考えて部活動の地域展開を進めていきたいと考えている。

[浅野委員]

- ・これからを担っていく中高生が、プランの中にあるような次世代育成の取組みにどのような「関わりしろ」を持っていけるかが重要であり、ここから福井県に根差して大活躍をするような人が育ってほしいと考えている。
- ・ただ、義務教育課も学校も先生方も、多くの課題を抱えているので、どこかに重きを置くというよりも、さまざまなつながりの中で、地域の専門人材が支えていくという仕組みを作っていけるとよい。それが福井県独自のスタイルであってもよいと思う。
- ・プランに関わる事業は大変多い。それぞれが大切な取組みなので、優先順位をつけるものではないと思うが、計画期間も2年目、3年目となってきた中で、「今はここに力を入れるタイミング」「これは継続して地道に行う」などとコントラストをつけて取り組めるとよい。

[中村委員（座長）]

- ・部活動の地域移行について、資料には「実証事業参加市町への支援」とあるが、これはどのように展開していくのか。

[事務局]

- ・国や県の補助を受けて部活動の地域移行の取組みを行った市町が、令和7年度は9市町あった。これが、令和8年度には14市町に増加する予定。
- ・市町によって、地域移行の進め方にも違いがあるので、希望のあるところにはしっかりと支援を行っていきたい。

[坂本委員]

- ・先日、福井市内の各地域で小学校の体育館や公民館を借りて、楽器や琴、絵画、ダンスなど様々な文化の体験をしてもらえる催しを行ったが、参加者の大半が小学校低学年の小さい子どもたちで、中学生にはあまり参加してもらえなかった。参加者の層を広げることが課題だと感じている。
- ・また、福井市ではこのようなことが実施できているが、他の市町はそこまでできていないところが多い。福井県文化協議会や市町の文化協会が支援しながら実施していけるとよいと思う。

[水井委員]

- ・部活動の地域移行については、逆にチャンスでもあると考えている。
- ・今、県と市町は部活動の講師ができる人材のバンクを作ろうとしている。これまで、子どもたちがお茶、お花、俳句、川柳などの日本の伝統文化に触れる機会は大変少なかった

が、この機会をうまく利用すれば、子どもたちに様々な日本の伝統文化を伝えられるのではと期待している。精一杯この機会を活かしたい。

- ・また、福井県文化協議会では、イベントやコンサートをする際、必ず体験コーナーをつくって子どもたちに体験してもらおうようにしている。面白さを知り、興味を持ってもらうため、今後も継続していきたい。

[畑中委員]

- ・海外との文化交流・相互理解促進について、これまでインバウンド交流課から「Fukui レポーターズ」の委嘱を受けた県内在住の外国人が様々なイベントに参加して魅力を発信してきた。この制度は令和7年12月で一旦終了し、県観光連盟で事業を引き継いだところ。県広報広聴課の国際交流委員だったピエールというフランス人を県観光連盟のプロパー職員として昨年度採用し、彼を中心に県内在住外国人と一緒に今年度から観光情報の発信をしているが、今後はサポーターズの業務である文化イベント等も発信していく。
- ・県内の市町や観光協会でも最近外国人を採用するケースが増えており、その方たちと一緒に、県内の観光地のみならず、様々なお祭りや文化関係のイベントに参加して魅力を発信している。年間100本程度の投稿をアップしていく予定なので、発信すべき文化イベント等の情報があれば教えてほしい。

[松谷委員]

- ・熊川宿若狭芸術祭の中で、アウトリーチコンサートを数カ所で開催されていたが、そこで聞いた子ども達や親御さんが、集大成である演奏会に能動的に参加するような取り組みや、演奏会の内容があるとよいと思った。
- ・それに加え、絵画や写真など様々なアートとタイアップさせて、音楽だけのステージではなく、見て聴いて心で感じられる、訪れた人たちの感動を呼び込むようなものになっていくとよいと思う。
- ・資料中に令和8年度の取り組みとして文化団体や若手アーティストなどがお互いの活動をPRし、情報交換する場を作ると書かれているが、ぜひ分野や団体を越えた連携ができていくとよいと思う。

[玉森委員]

- ・県文化振興事業団では様々なアーティストのアウトリーチを実施しているが、アートとのコラボレーションは正直言って難しい部分がある。
- ・音楽については、「越のルビーアーティスト」という20年以上の歴史を持つ制度があり、登録アーティストも60名を超えているが、アートの方にどのような人材がいて、どんなコラボレーションが考えられるかという点、「芸術文化人材データベース」だけでは情報不足だと感じている。
- ・ただ、子ども達に文化芸術を届けるには、我々が能動的に動く必要があると思うので、アウトリーチは非常に重要な事業だと思っている。

[浅野委員]

- ・ 県立美術館と県立博物館が大きな変化のタイミングを迎えるが、県内には市町にもたくさん文化施設がある。文化施設同士の連携の可能性というのは考えられないか。

[事務局]

- ・ 今、具体的に何か決まったことがあるわけではないが、県立美術館の改修に向けて市立美術館と意見交換した際には、何か1つテーマを決めて、お互いが別々の企画を実施するなどといった連携ができるとよい、という話はあった。
- ・ 基本計画骨子（案）にも県内の文化団体や他の施設と連携した企画を実施するということは記載しているので、積極的に実施していきたい。

[朝倉委員]

- ・ 今の話題について、ジャンルを超えた連携や行政の単位を超えた連携はすごく大切だと言われているが、お互いそれぞれの縦割りがあり、特に市町同士の連携は現実的に難しい。
- ・ 例えば、若狭町のパレア若狭は音楽ホール、ギャラリー、図書館の入った複合施設でジャンルを超えた連携をすごく工夫して実施しているが、これが美浜町のなびあすと連携しようと思っても、それぞれのスケジュールで動いているのでなかなか難しい。
- ・ ただ、今後の人口減少を考えると、それぞれの館が専門家を配置して、スタッフを充実させていくのはかなり難しい。そうすると、近隣のホールで協力し、充実させた企画をして集客も一緒にやるなど、効率化と質の向上を同時に図ることを考えていかななくてはならない。
- ・ これを市町同士でやりとりして実現していくことは困難なので、県が広域的なコミュニケーションの場を作ることが必要になる。プランの中でも市町との連携とか、市町の担い手支援などと書かれており、具体的にどう進めるかは非常に難しいが、プラン3年目以降の一つの大きな課題として取り組んでいく必要があると思う。

[友田委員]

- ・ 一昨年、結城秀康のつながりで滋賀県の郷土歴史博物館、県歴史博物館、茨城県の結城蔵美館の3館で連携し、順番に展示を行って多くの方に来場いただいた。
- ・ 県内でいうと、学芸員同士で資料のやり取りをするなど、見えないところでの連携はあるが、もう少し皆さんにも知っていただけるような形で連携していけたらと思っている。
- ・ 県立歴史博物館のリニューアル検討の中でも、県で全体のことを展示して、細かいところは各市町の専門の文化施設で見てもらえるような形の展示も大事ではないかというご意見をいただいているので、引き続き検討していきたい。

[福井市 山口局長（オブザーバー）]

- ・ 福井市も、美術館、郷土歴史博物館、プラネタリウムなどの文化施設を有しているが、どのような連携ができるかというとなかなか難しい。それぞれの学芸員に専門の領域があって、研究してきたことの発表の場である展示は非常に重要なものなので、慎重に時間をかけて検討する必要がある。

- ・1カ月、2カ月の短いスパンでは難しいが、長いスパンで、それぞれの文化施設でどのような催しを実施しているのかが見えるようにできるとよいと思う。

[敦賀市 織田部長（オブザーバー）]

- ・大河ドラマの関連スポットや事業を紹介するパンフレットは県で統一して作成しており、県と市町が連携してPRを行っている。また、敦賀市では長浜市と連携するような事業を展開したり、東京の博物館に絵画を貸し出したりというようなことは以前から行っている。
- ・大きな連携で事業を展開するようなことは行っていないが、何かテーマを絞ることができれば可能性はあると思う。
- ・先ほど話題にあがった国際交流について、予算が承認されれば、8月からポーランド人の国際交流を1名ムゼウムに配置する予定をしているので、ぜひ県観光連盟とも連携していきたい。
- ・敦賀市では、文化や歴史に触れるハードルを低くしたいと思っている。大きなホールでコンサートを開催するだけでなく、40～50人規模で、小さい子どもから高齢者、障がいのある方も含めてクラシックが聴けるとか、アートが鑑賞できるといった機会を増やしていきたい。

[小畑委員]

- ・企業の文化活動について、海外では企業が文化芸術を支援する権利が売買されるような時代になっており、感覚的には、県内でもそういったことに理解を示し、取り組んでいこうとしている経営者は増えていると思う。
- ・先ほど学芸員の話があったが、昨年、観光の事業の中で学芸員の方に案内をお願いする機会があり、大変素晴らしいガイドで、参加者は非常に満足して帰って行った。難しいとは思いますが、我々としてはぜひ代金を支払ってマネタイズしてもらえたらと考えている。

[畑中委員]

- ・県観光連盟では数年前に「〇〇学芸員と行く△△ツアー」と銘打ったツアーを定期的で開催していた時期があり、「〇〇学芸員と行く」という冠がついただけですぐツアー申込みが満員になることもあったと聞いている。

(2) 議題2：学生WGの提案発表

[中村委員（座長）]

- ・昨年9月にこの会議の中で設置の承認をいただいた学生WGについて、11月から活動をスタートさせている。本日は、学生WGメンバーから、県の新たな文化施策について提案発表をしていただく。
- ・発表の前に、学生WGの活動状況について事務局より説明させていただく。

[事務局]

- ・資料2に基づき説明

[学生WG・A班メンバー]

- ・資料3-1に基づき発表（タイトル：押し福プロジェクト）

[中村委員（座長）]

- ・ありがとうございます。ただいまの提案について、委員の皆様にご質問、ご意見などをお伺いしたい。

[朝倉委員]

- ・若者の入口として「押し」というキーワードを使っていて、非常に受け入れられやすいと思った。
- ・会場を駅前や商業施設にしている点について、入口にするという意味では大変よいが、一方で文化資源は場所と深く結びついており、人の営みなどの背景にあるストーリーが非常に重要。そういったものをどうワークショップに取り入れて伝えていくか、また、その場所まで足を運んでもらう工夫なども考えてもらえるとよいと思った。

[学生WG・A班メンバー]

- ・今回紹介しきれなかったが、例えば今回例にあげた鯖江の眼鏡であれば、実際に職人さんがどのような場所でどのように眼鏡を作っているのかを紹介する動画を作成して、イベント会場でQRコードを読み込めばその動画を見られるようにする仕組みを考えていた。

[小畑委員]

- ・私も地域商社として伝統工芸品売っているが、素晴らしい提案だと思う。
- ・伝統工芸品は昔から同じ形で作られてきて、なかなか裾野が広がっていかないことが課題になっている。例としてあがっていたマスコット用の眼鏡などはこれまでと用途の違うところに進出しているのので、一気に興味を持つ人が増えると思う。
- ・さらに言えば、伝統工芸品単品よりも、伝統工芸品と何かを一緒にするという商品開発をすると成功しやすいと思うが、そういったことは考えているか。

[学生WG・A班メンバー]

- ・マスコット用の小さいサイズの眼鏡と、自分用の普通のサイズの眼鏡をお揃いで購入できるようにすれば、疑似的に“押し”と同じ眼鏡をかける体験ができる。普通サイズの眼鏡を売るときに、少しプラスでお金を払えばマスコット用の眼鏡も購入できるような仕組みができるとよいと思っている。

[中村委員（座長）]

- ・最後に、この学生WGに参加してみたいの感想を伺いたい。

[学生WG・A班メンバー]

- ・私は県外出身だが、県民にも県外の人にも伝わっていない福井の魅力がまだまだたくさんあると思う。魅力発信に貢献する事業を提案できてよかった。
- ・最初は何をしたらよいか分からなかったが、福井県の課題や優れている面を組み合わせると事業が出来上がっているのだということが徐々にわかってきた。もし、提案した事業のアイデアが実現するのであれば、ぜひこれからも関わっていきたいと思う。

[学生WG・B班]

- ・資料3-2に基づき発表（タイトル：まちなかに芸術は潜んでいる）

[中村委員（座長）]

- ・除雪が芸術とは思ってもよらなかった。何かそう思ったきっかけがあったのか。

[学生WG・B班メンバー]

- ・自分はデザインを学んでいるが、どんな職業の人でも全員デザイナーだと思っている。
- ・除雪車が通った後、毎回路肩に積まれている雪が違うのを見ておもしろいと感じた。コントロールしてできるものではないが、そこに創造性があるのではないかと思ったのがきっかけ。

[朝倉委員]

- ・「文化芸術」の見方を変えることを狙いにした素晴らしいアートプロジェクトだと思う。「文化」は最も広い意味では、衣食住を含めた人間の営みの総体と言える。
- ・「創造的除雪」というキーワードも面白いと思ったが、一般的に除雪は機能性を求めて行われるものであり、雪は住民側からすると厄介者。その雪を創造的だと見てもらうためにはどのように理解を広げていくのが課題となる。

[学生WG・B班メンバー]

- ・公道ではなく、住宅地の空き地や公園で実施することを考えている。公園のアプローチに雪を集めるだけで、自然とあそび場が変わっていくのではないかと考えている。造形的に雪で何かを作るのではなく、子ども達が上に乗ったり、少しずつ溶けたりすることでだんだんと遊びの形になじんでいく、その過程そのものが事業だと考えている。

[中村委員（座長）]

- ・もう一つ「事業案②」についても、何か思いついたきっかけはあったのか。

[学生WG・B班メンバー]

- ・私自身が鯖江に住んでいるが、鯖江では日常的に眼鏡のマークを見かける。そういったマークが写真の撮り方次第でアートに見えるのではないかと思ったのがきっかけ。
- ・街中にある何気ないものをアートとして写真に収めたりするのも一つの文化ではないかと思った。

[中村委員（座長）]

- ・ 学生WGに参加してみてもの感想を伺いたい。

[学生WG・B班メンバー]

- ・ 福井に来て1年目で福井のことを何も知らなかったが、学生WGの活動を通じて福井の良さやPRについて考えることができてよかった。
- ・ 私は出身が福井だが、学生WGに入って初めて県がこんなに文化に力を入れていることを知った。メンバーと話す中で文化の新しい見方を発見することもでき、成長できた。
- ・ 全ての人がデザイナーだと思っていたが、全ての人が文化の担い手であり創造者であるというところまで解釈が広がった。自分にとってとても有意義な活動だった。

[学生WG・C班]

- ・ **資料3-3**に基づき発表（タイトル：絵本であそび隊！）

[坂本委員]

- ・ 子どもが最初に触れる絵本を題材に選んで、そこから文化を広げようという取組みはとてもいいと思った。

[朝倉委員]

- ・ 絵本は全ての表現の土台になるものなので、子どもにとってだけでなく大人にとってもとてもよい素材だと思う。
- ・ 先ほど連携が難しいという話もあったが、絵本という小さな素材からでも様々なジャンルを結びつけることができるので、こういう企画の立て方であればいろいろな広がりがあると思う。

[中村委員（座長）]

- ・ 学生WGに参加してみてもの感想を伺いたい。

[学生WG・C班メンバー]

- ・ 一から事業を組み立てるという経験がなく、しかも「文化」という漠然としたテーマだったので、形にするのがすごく難しいと感じた。ただ、たまたま絵本という題材に出会えたのでなんとか事業の形にすることができた。これが実際に事業として実施されたらいいな、という願いを込めながら取り組んだ。
- ・ 私はこのWGだけでなく、県主催の「WAKASAアートキャンプ」に参加したり県立美術館に行ったりもした。いろんな人と関わる中で福井の文化芸術の魅力を再発見できたのはよい経験だったと感じている。
- ・ このWGだけでなく、他のアートプロジェクトにも関わる中で、実用性を指すことと創造性のバランスがむずかしいと感じていたが、今回は絵本という題材に出会えてよい事業団ができたと思っている。

[中村委員（座長）]

- ・ 本日の議事はこれですべて終了した。委員の皆様には円滑な議事進行にご協力いただき、感謝する。